

3/14 月

都道府県 分配に苦慮

高齢者数管理 実月報

当初、想られたワクチンをどう分配したらよいのか。高齢者向け新型コロナウイルスのワクチン初接種を巡り、都道府県は難しい選択を迫られた。国は接種を四月十一日から始めるとしたものの、床盤の確保量は少なく、分配方法は「丸投げ」。矢面に立たされた自治体は人口順か過疎地にも配慮するか、あくまで平等かなど接種第一号の優先順位だけで苦慮した形だ。

△納得感

「高齢者人口が最も多い」。栃木県は国から最初に送られるワクチン二箱（約千人分）の割当先を宇都宮市とした。札幌と江別両市に割り当てた北海道の担当者は「本当に納得してしまった。それが市町村も納得やすい」と語った。都道府県へ多くは高齢者数やこれまでの感染者数、準備状況を勘査し、道府県厅所在地に割り当てた。愛知県や京都府、宮崎県なども名古屋、京都、宮崎などの各市からスタートを切る。宮城県は仙台市に加え右巻市にも送るもの、担当者は「どこに送るかの決定に苦しみだ」と明かした。

△自配り

新潟市十長岡市、聖籠町、出雲崎町など徳島県徳島市十阿南市、佐那河内村市以外や離島を含む鳥取県琴浦町、南部町宮古島市、うるま市（離島を優先。4月12日から接種可能）大阪府（全市町村の高齢者人口割りで配分）奈良県（第3弾までを一体で捉え）長野県須坂市（明確な方針定まらず、県立の医療機関に）

県庁所在地+それ以外

新潟県新潟市十長岡市、聖籠町、出雲崎町など

徳島県徳島市十阿南市、佐那河内村

市以外や離島を含む

鳥取県琴浦町、南部町

宮古島市、うるま市（離島を優先。4月12日から接種可能）

大阪府（全市町村の高齢者人口割りで配分）

奈良県（第3弾までを一体で捉え）

長野県須坂市（明確な方針定まらず、県立の医療機関に）

人口か、感染者数か、地域バランスか…

高齢者接種とワクチン配送のスケジュール

4月 5日の週	都道府県に100箱出荷
	→各4箱 44道府県 →各2箱 ※1箱=約500人分(1人2回接種)
12日から 12日の週	
接種スタート	都道府県に計500箱
	→各20箱 44道府県 →各10箱
19日の週	
都道府県に計500箱	→各20箱 44道府県 →各10箱
26日の週 6月末まで	
全1741市区町村に各1箱 全高齢者 約3600万人分の 配達元	

（首都圏の自治体首長）。沖縄県は選定基準の一つに「離島」を設け、宮古島市にも届ける。地域バランスを重視した自治体もある。熊本県は、高齢者数の多い熊本市に配るものの、第三弾（四月十九日の週に出荷）までの分で、水俣市や天草市など県内に幅広く配る方針だ。

担当者は「高齢者数のみを基準にすると、熊本市に相当量が割り振られてしまふ。数量が少なく悩ましいが、試行的に多くの自治体に実施してほしい」と話した。東西に長い新潟県も地理的な偏りが出ないよう自配りした。二箱のうち一つは新潟市、もう一つを長岡市に属いた上で、周辺の市町にも送る。第三弾までに全市町村にワクチンを行き渡らせる。

△小分け

奈良県も新潟県に近い考え方で立つ。第三弾までに受け取る計一二二箱（約一万一千人分）を一体として、全市町村にます均等に百人分を配り、残り分は

高齢者の人数を基に傾斜加算するとした。県内の市町村との会議で提示して合意を得る手続きを踏んだ。大阪府はさすがに「平等」に重きを置き、届いた四箱（約一千人分）を小分けにして、府内の全四十三市町村に高齢者の人口比で配分するとした。

長野県は「明確な方針がない」とした。県立の医療機関にいったん供給と決まっておらず、県立の医療機関にいったん供給として、所在地の須坂市に一箱を送る。全国では四月二十六日の週の出荷まで一箱も届かない自治体が圧倒的。その中の一、愛知県日進市は四月十五日から一日当たり千箱を送る。

河野太郎行政改革担当相は三月十二日の記者会見で、高齢者分で新たに五月九日までに約四千箱（約二百万人口分）を届けると表明した。歐州連合（EU）の輸出手認などの不確定要素もある。高齢者数に見合つて、高齢者分で新たに五月九日までに約四千箱（約二

000人分）を届けると表明され方で立つ。第三弾までに受け取る計一二二箱（約一万一千人分）を一体として、全市町村にます均等に百人分を配り、残り分は